

科目名（英文表記）	ベンチャー経営 I (企業家精神: Entrepreneurship)		
科目区分	基礎科目	単位数	2 単位
担当教員名	瀬戸 篤		
研究室番号	528	研究室電話番号	27-5306
Eメール・アドレス	atseto@res.otaru-uc.ac.jp		
授業の内容及び方法：次頁以降に記載			
<p>授業の目的：</p> <p>目的は、経済発展のエンジンとなる企業家精神を理解し、事業創造に求められる中核的課題を学ぶことにある。同時に、将来、自らが組織内または組織外で新事業を創出する際に欠かせないリーダーとしての資質（教養・見識・勇気・パートナー）を、自己確認する点にある。世の中には、優れた経営資源やあらたなシーズ・技術をもちながらも、めまぐるしく変動する市場経済で活かすことが出来ずに消えてゆく企業や創業者は数知れない。そこで、本講義では、第一部（M1－4）「企業家精神の理論と歴史」、第二部（M5－8）「創業者の理解」の二部を通じて新事業の創出方法論と成長モデルを学ぶ。</p> <p>到達目標は、在学中もしくは卒業後に、社内新規事業担当者および支援者、ベンチャー企業の創業者&経営者、二代目経営者(予定者)として新規事業を志向する者、インキュベーター・マネージャー、キャピタリストおよび金融機関におけるベンチャー融資担当者、として活躍する時に困らない実学（教養＋突破力）を意識的に学ぶことにある。</p> <p>講義形式は、前半（M1－M5）がテキスト熟読中心、後半（M6－M8）はゲスト講師（創業経営者）を招いての対話が中心となっている。新規事業&創業には信じられないほどの重圧と重責が創業者に課せられる。それゆえ、こうした理論と歴史を学ぶことにすら重圧感や回避心をもつようであれば、その後には万に一つの成功も望むべくないことを現実の創業家が実証している。</p> <p><企業家精神の体系的理解のために></p> <p>第一部 企業家精神の理論</p> <p>M1 企業家精神講義一理論篇 M2 企業家精神講義一歴史篇 M3 企業家精神講義一現実篇 M4 企業家精神講義一実践編及び総括</p> <p>第二部 創業者の理解</p> <p>M5 社内事業型—本学OBによる三井不動産における新規プロジェクト M6 大学発型—本学OBによる道内観光系ベンチャー創業者 M7 スピアウト型—大手企業エンジニアによるITベンチャー創業者</p> <p>第三部 総括</p> <p>M8 講義総括</p>			

使用教材（*サテライト書棚にて大半が閲覧可）

M1-4: 瀬戸篤『MBAのための企業家精神講義』（同文館2012）

M5: アニス・ウッズマン『スタートアップ・バイブル』（講談社2014）

M6: 最終課題: P・F・ドラッカー『イノベーションと企業家精神—ドラッカー名著集5—』ダイヤモンド(2007) (*注・・・2分冊簡略版『イノベーションと起業家精神』は不可)

成績評価の方法: 最終講義終了後3週間以内に、<A4*10頁以上の最終レポート>を提出し、成績評価のウェイトに基づく最終評価を決定する。

評価の要素	ウェイト
出席率	10%
授業への参加度（事例，討論，調査）	10%
ホームワーク（事前課題の提出）	50%
小テストないしクイズ	0%
試験ないしプレゼンテーション（最終課題）	30%

評価に不服のあるものは、教務委員長に申し出ること。

履修上の注意事項:

- 試験ないしクイズなどは授業中に行わないが、講義日09:30までの事前課題提出（アップ）が評価の絶対要件である。なお、講義時間までに提出のないものの出席を認めない。
- 講義を欠席した場合、理由の如何を問わず、最終的な成績点数から1/8（二回なら2/8）を機械的に減ずる。
- 課題は、「ワード文書」保存形式で、A4で40文字×40行の11ポイント、マージは上下左右ともに30mm、下部中央にページ番号。さらに9ポイントで右上フッターに二段書きで1段目が「モジュール名・提出課題種類・対象図書ないし講師名」、2段目には「学生番号&氏名」を明記する。さらに提出ファイル名には提出者の氏名を必ずつけること。
- M5-7でゲスト講師（OBS/OB、創業CEO、元創業者）を迎えての対話があるので、学部進学者・留学生を含めてビジネスマナー（スーツ又はノーネクタイジャケット着用・時間厳守）に留意されたい。また、M6-M8終了後に講師を囲む懇親会をサテライト周辺で実施するので、積極的に参加して名刺交換されたい。（*「生年・出身県」「社会人直前の出身校・専攻名」を現職名刺の表面空白部に予め手書きしておくこと。現役学生は、OBSの所属名刺（氏名・学年・Eメール）を作成しておくこと）